

22 劇場でのフラメンコ公演

フラメンコの楽しみ方 2

タブラオとともにフラメンコを観る場として一般的なのが劇場です。スペインでは9割が観光客というタブラオよりも、アフィシオナードたちには近い存在でしょう。タブラオのように毎日公演があるわけではないのですが、一流のアーティストから気鋭の新人まで、それぞれに工夫を凝らした舞台をみせてくれます。

劇場でのフラメンコの歴史

民衆の宴の中から生まれたフラメン

コですが、かなり早い時期から劇場の舞台にも上がっているのをご存知ですか？ 今あるフラメンコのかたちの基礎を築いた歌手、シルベリオ・フランコネティは1864年にカディスのシルコ劇場に、また1865年にはヘレスのプリンシパル劇場に出演してカーニャやシギリージャを歌っています。その2年後同じプリンシパル劇場にエル・ミンゴリという踊り手も出演してソレアを踊っています。

その後、カフェ・カンタンテが隆盛を迎えたことなどもあり、フラメンコ

は酒場のものという偏見もあったようですが、実際には、来日した最初のスペイン人舞踊家ラ・アルヘンティーナは世界中の大舞台で活躍していました(日本では帝国劇場で公演しました)、フラメンコ史上最高の歌手と言われるニーニャ・デ・ロス・ペイネスのように、20世紀初頭から劇場公演を多く行っているアーティストもありました。それでも、クラシックの殿堂の敷居は高く、1975年マドリードの王立劇場に初めて出演した時はあのパコ・デルシアでさえも足が震えたと言います。現在



セビージャのロベ・デ・ベガ劇場／トレメンディータのアンコール
 1929年創立のクラシックな劇場。砂糖菓子入れと呼ばれる美しい劇場で、ビエナルのメイン会場でもあります。



アントニオ・ガデス舞踊団『血の婚礼』
細部にまでこだわったガデス舞踊団の代表作。写真は初演から主役を演じていたオヨスとだが、その後、国立やアンダルシア舞踊団などでも上演されています。



スペイン国立バレエ『メデア』
ギリシア悲劇をフラメンコ化。マノロ・サンルーカルの音楽とともに忘れ難い名作です。

では、内外のオペラハウスなど、クラシックの殿堂とよばれるホールでの公演も全く珍しいことではありません。

劇場でのフラメンコの特徴

劇場でのフラメンコ公演は、リサイタル、もしくは“作品”が中心です。すなわち一人のアーティストを中心にした公演です。それだけ、そのアーティストの実力や志が観客にもよく見えてくるのではないのでしょうか。なお、複数のアーティストがそれぞれのパートを演じていくフェスティバル形式のものや二人のアーティストが一部二部をそれぞれ公演するというのもたまにあります。

現在ではアーティスト自身がそのリサイタルなどの“作品”を企画し、劇場やフェスティバル、または海外ツアーなどのオーガナイザーに売り込むという形が基本になっています。アーティストにはパフォーマンスの才能だけでなく、作品を作る能力や営業力も必要となってきているのです。カンテやギターのリサイタルでも構成や照明などの“魅せる”工夫が必要ですし、舞踊ではより複雑です。物語性のあるものか、一つのテーマで構成していくのか、曲を並べるコンサート方式か、また共演をどうするのか、装置は、衣装は、など作品づくりにはたくさんの課題をこなしていかなければなりません。そのため、演出家や制作など、作品づくりのプロに依頼することも多いようです。

テアトロ・フラメンコ

ところでスペイン語で劇場はteatroテアトロですが、演劇のこともteatroと言います。なので、テアトロ・フラメンコというと基本、フラメンコ演劇のことになります。フラメンコの要素がある芝居は、フラメンコ草創期に多く作られたと言います。その後もスペイン歌謡系のアーティストなどもそんな作品を作ってきました。ひいては、芝居の要素のある、ドラマのあるフラメンコ作品、例えばアントニオ・ガデス舞踊団『血の婚礼』などのことをそうよぶこともあります。

なお、現在、マドリードとトリアーナにできたフラメンコ専門劇場もテアトロ・フラメンコと言いますが、この場合はフラメンコ劇場という意味になります。同じ言葉で違う意味になるわけです。

バレエ・フラメンコ？ 舞踊団

同じようなことがバレエという言葉でも起こります。日本でバレエというとクラシックバレエのイメージが強いと思いますが、スペインでは、バレエそのものだけでなく、舞踊の舞台作品、また舞踊団のこともバレエと言います。スペイン国立バレエ団がクラシックのバレエ団ではないのも、そういうわけなのです。アンダルシア・フラメンコ舞踊団の現在の正式名称はBallet Andaluz de Flamencoですが、ここでのバレエ

も舞踊団の意味になります。

劇場公演情報の探し方とマナー

劇場公演の情報はフラメンコ専門サイトの公演予定のセクションが便利です。また、行ってみたい劇場があるならそのホームページで確認でき、入場券もウェブから入手できます。なお、劇場でフラメンコを観る際は劇場ならではのマナーもあります。録音録画写真撮影の禁止、客席での飲食禁止などは日本の劇場と同じですね。また、ドレスコードがあるわけではないのですが、王立劇場などの1、2階席で見ると周りもおしゃれしている人が多いので、オペラなどが上演される歴史のある劇場などではこざれいにしていく方が自分も周りも気持ちよく過ごせるように思います。



2005年のシカゼ
ヘレスのパルメーロ、ポーと。

志風恭子 / 1987年よりスペイン在住。セビージャ大学フラメンコ学博士課程前期終了。パセオ通信員、通訳コーディネーターとして活躍。パコ・デルシアをはじめ、多くのフラメンコ公演に携わる。